

## 復活前主日（聖書協会共同訳）

人類を深く愛し、救い主、み子イエス・キリストをこの世に遣わされた全能の神よ、み子はわたしたちと同じ肉体を取り、己を低くして死に至るまで、十字架の死に至るまであなたに従われました。どうかわたしたちに恵みを与えて、み子の苦しみの模範に従わせ、またそのよみがえりにあずからせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

## 旧約聖書 イザヤ書 52章13－53章12節

52:13 見よ、わが僕は栄える。彼は高められ、上げられ、はるかに高くなる。14 多くの人が彼のことで驚いたように、その姿は損なわれ、人のようではなく、姿形は人の子らとは違っていた。15 そうして、彼は多くの国民を驚かせる。王たちは彼について口を閉ざす。彼らは、自分たちに告げられていなかったことを見、聞いていなかったことを悟るからだ。

53:1 私たちが聞いたことを、誰が信じただろうか。主の腕は、誰に示されただろうか。2 この人は主の前で若枝のように、乾いた地から出た根のように育った。彼には見るべき麗しさも輝きもなく、望ましい容姿もない。3 彼は軽蔑され、人々に見捨てられ、痛みの人で、病を知っていた。人々から顔を背けられるほど軽蔑され、私たちも彼を尊ばなかった。4 彼が担ったのは私たちの病、彼が負ったのは私たちの痛みであった。しかし、私たちは思っていた。彼は病に冒され、神に打たれて、苦しめられたのだと。5 彼は私たちの背きのために刺し貫かれ、私たちの過ちのために打ち砕かれた。彼が受けた懲らしめによって、私たちに平安が与えられ、彼が受けた打ち傷によって私たちは癒やされた。6 私たちは皆、羊の群れのようにさまよい、それぞれ自らの道に向かって行った。その私たちすべての過ちを、主は彼に負わせられた。7 彼は虐げられ、苦しめられたが、口を開かなかった。屠り場に引かれて行く小羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、口を開かなかった。8 不法な裁きにより、彼は取り去られた。彼の時代の誰が思ったであろうか。私の民の背きのために彼が打たれ、生ける者の地から絶たれたのだと。9 彼は暴虐をなさず、口には偽りがなかったのに、その墓は悪人どもと共にされ、富める者と共に葬られた。10 主は彼を打ち砕くことを望まれ、病にかからせた。彼が自分の命を償いのいけにえとするなら、その子孫を見、長寿を得る。主の望みは彼の手によって成し遂げられる。11 彼は自分の魂の苦しみの後、光を見、それを知って満足する。私の正しき僕は多くの人を義とし、彼らの過ちを自ら背負う。12 それゆえ、私は多くの人を彼に分け与え、彼は強い者たちを戦利品として分け与える。彼が自分の命を死に至るまで注ぎ出し、背く者の一人に数えられたからだ。多くの人の罪を担い、背く者のために執り成しをしたのは、この人であった。

## 詩 編 第22篇1～22節

1 わたしの神、わたしの神、どうしてわたしを見捨てられるのですか// どうして遠く離

- れて助けようとはせず、わたしの叫びを聞こうとされないのですか
- 2 神よ、昼、わたしが叫んでもあなたはこたえられず // 夜、叫んでも心は安らぐことはない
  - 3 あなたは聖なる方 // イスラエルの賛美を住まいとされる
  - 4 わたしたちの先祖はあなたを信じ // あなたは彼らを救われた
  - 5 彼らは助けを求めて聞き入れられ // 信じて恥を受けることはなかった
  - 6 わたしは虫けらではない // 人にそしられ、民に侮られる
  - 7 わたしを見る者はみな笑い // わたしをあざけて言う
  - 8 「彼は主を頼みとした。神が救いに来ればよい // 神が彼に心を掛けているのなら、救い出せばよい」
  - 9 あなたは母の胎からわたしを取り出し // その乳房でわたしを育てられた
  - 10 この世に生を受けたときからわたしはあなたのもの // 母の胎にいたときから、あなたはわたしの神
  - 10 わたしから遠く離れないでください // 悩みはわたしに迫り、助けに来る者もない

### 使徒書 フィリピの信徒への手紙 2章5～11節

2:5 互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにも見られるものです。6 キリストは、神の形でありながら、神と等しくあることに固執しようとは思わず、7 かえって自分を無にして、僕の形をとり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、8 へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで、従順でした。9 このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名を、お与えになりました。10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものすべてが、膝をかがめ、11 すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神が崇められるためです。

### 福音書 マルコによる福音書 《14章32-72》15章1-39 《40-47》節

《14:32 一同がゲツセマネという所に来ると、イエスは弟子たちに、「私が祈っている間、ここに座っていなさい」と言われた。33 そして、ペトロ、ヤコブ、ヨハネを伴われたが、イエスはひどく苦しみ悩み始め、34 彼らに言われた。「私は死ぬほど苦しい。ここを離れず、目を覚ましていなさい。」35 少し先に進んで地にひれ伏し、できることなら、この時を過ぎ去らせてくださるようにと祈り、36 こう言われた。「アッバ、父よ、あなたは何でもおできになります。この杯を私から取りのけてください。しかし、私の望みではなく、御心のままに。」37 それから、戻って御覧になると、弟子たちが眠っていたので、ペトロに言われた。「シモン、眠っているのか。一時も目を覚ましていられなかったのか。38 誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心ははやっても、肉体は弱い。」

マル 14:39 さらに、向こうへ行つて、同じ言葉で祈られた。40 再び戻って御覧にな

ると、弟子たちは眠っていた。まぶたが重くなっていたのである。彼らは、イエスにどう言えばよいのか、分からなかった。41 イエスは三度目に戻って来て言われた。「まだ眠っているのか。休んでいるのか。もうよかろう。時が来た。人の子は罪人たちの手に渡される。42 立て、行こう。見よ、私を裏切る者が近づいて来た。」

43 そしてすぐ、イエスがまだ話しておられるうちに、十二人の一人であるユダが現れた。祭司長、律法学者、長老たちの遣わした群衆も、剣や棒を持って一緒に来た。44 イエスを裏切ろうとしていたユダは、「私が接吻するのが、その人だ。捕まえて、逃がさないように連れて行け」と、前もって合図を決めていた。45 ユダは、やって来るとすぐにイエスに近寄り、「先生」と言って接吻した。46 人々は、イエスに手をかけて捕らえた。47 そばに立っていた者の一人が、剣を抜いて大祭司の僕に打ちかかり、片方の耳を切り落とした。48 そこで、イエスは彼らに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持って捕らえに来たのか。49 私は毎日、神殿の境内で一緒にいて教えていたのに、あなたがたは私を捕らえなかった。しかし、これは聖書の言葉が実現するためである。」50 弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げてしまった。

51 一人の若者が、素肌に亜麻布をまとってイエスに付いて来ていた。人々が捕らえようとすると、52 亜麻布を捨てて裸で逃げてしまった。

53 人々は、イエスを大祭司のところへ連れて行った。祭司長、長老、律法学者たちが皆、集まって来た。54 ペトロは、遠くからイエスの後に付いて、大祭司の中庭まで入り、下役たちと一緒に座って、火にあたっていた。55 祭司長たちと最高法院の全員は、死刑にするためイエスにとって不利な証言を求めたが、得られなかった。56 イエスに対する偽証をした者は多かったが、一致しなかったのである。57 ついに、数人の者が立ち上がり、イエスに対する偽証をして言った。58 「この男が、『私は人の手で造ったこの神殿を壊し、三日のうちに、手で造らない別の神殿を建ててみせる』と言うのを、私たちは聞きました。」59 しかし、この場合も、彼らの証言は一致しなかった。60 そこで、大祭司は立ち上がり、真ん中に進み出て、イエスに尋ねた。「何も答えないのか。この者たちが不利な証言をしているが、どうなのか。」61 しかし、イエスは黙り続け、何もお答えにならなかった。そこで、重ねて大祭司は尋ね、「お前はほむべき方の子、メシアなのか」と言った。62 イエスは言われた。「私がそれである。あなたがたは、人の子が力ある方の右に座り、天の雲に乗って来るのを見る。」63 大祭司は衣を引き裂いて言った。「これでもまだ証人が必要だろうか。64 諸君は冒?の言葉を聞いた。どう思うか。」一同は、イエスは死刑にすべきだと決議した。65 そして、ある者はイエスに唾を吐きかけ、目隠しをしてこぶしで殴りつけ、「言い当ててみろ」と言い始めた。また、下役たちもイエスを平手で打った。

66 ペトロが下の中庭にいたとき、大祭司の召し使いの女の一人が来て、67 ペトロが火にあたっているのを目にすると、まじまじと見て言った。「あなたも、あのナザレのイエスと一緒にいた。」68 ペトロは打ち消して、「何を言っているのか、分からない。見当もつかない」と言った。そして、庭口の方に出て行くと、鶏が鳴いた。69 召し使いの女はペ

トロを見て、周りの人々に、「この人は、あの人たちの仲間です」とまた言いました。70 ペトロは、再び打ち消した。しばらくして、今度は、居合わせた人々がペトロに言った。

「確かに、お前はあの連中の仲間だ。ガリラヤの者だから。」71 しかし、ペトロは、呪いの言葉さえ口にしながら、「あなたがたの言っているそんな人は知らない」と誓い始めた。72 するとすぐ、鶏が二度目に鳴いた。ペトロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度私を知らないと言うだろう」と言われたイエスの言葉を思い出して、泣き崩れた。》

15:1 夜が明けるとすぐ、祭司長たちは、長老たちや律法学者たちと共に最高法院全体で協議した後、イエスを縛って連れ出し、ピラトに引き渡した。2 ピラトがイエスに、「お前はユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることだ」とお答えになった。3 そこで祭司長たちが、いろいろとイエスを訴えた。4 ピラトが再び尋問した。「何も答えないのか。あんなにお前を訴えているのに。」5 しかし、ピラトが不思議に思うほどに、イエスはもう何もお答えにならなかった。

6 ところで、祭りの度に、ピラトは、人々が願い出る囚人を一人釈放していた。7 さて、暴動のとき人殺しをして投獄されていた暴徒の中に、バラバと言う男がいた。8 群衆が押しかけて来て、いつものようにしてほしいと要求し始めた。9 ピラトは、「あのユダヤ人の王を釈放してほしいのか」と言った。10 祭司長たちがイエスを引き渡したのは、妬みのためだと分かっていたからである。11 しかし、祭司長たちは、バラバのほうを釈放してもらおうように群衆を扇動した。12 そこで、ピラトは改めて、「それでは、ユダヤ人の王とお前たちが言っているあの者は、どうしてほしいのか」と言った。13 群衆はまた叫んだ。「十字架につけろ。」14 ピラトは、「一体、どんな悪事を働いたというのか」と言ったが、群衆はますます激しく、「十字架につけろ」と叫んだ。15 ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバを釈放した。そして、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。

16 兵士たちは邸宅、すなわち総督官邸の中にイエスを連れて行き、部隊の全員を呼び集めた。17 そして、イエスに紫の衣を着せ、茨の冠を編んでかぶらせ、18 「ユダヤ人の王、万歳」と挨拶し始めた。19 また、葦の棒で頭を叩き、唾を吐きかけ、ひざまずいて拝んだりした。20 このようにイエスを侮辱したあげく、紫の衣を脱がせて元の上着を着せた。そして、十字架につけるために外へ引き出した。

21 そこへ、アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人が、畑から帰って来て通りかかったので、兵士たちはこの人を徴用し、イエスの十字架を担がせた。22 そして、イエスをゴルゴタという所、訳せば「されこうべの場所」に連れて行った。23 没薬を混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはお受けにならなかった。24 それから、兵士たちはイエスを十字架につけて、誰が何を取るか、くじを引いて、その衣を分け合った。25 イエスを十字架につけたのは、午前九時であった。26 罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあった。27 また、イエスと一緒に二人の強盗を、一人は右にもう一人は左に、十字架につけた。29 そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスを罵って言っ

た。「おやおや、神殿を壊し、三日で建てる者、30 十字架から降りて自分を救ってみろ。」  
31 同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒に、代わる代わるイエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。32 メシア、イスラエルの王、今すぐ十字架から降りるがいい。それを見たら、信じてやろう。」一緒に十字架につけられた者たちも、イエスを罵った。

33 昼の十二時になると、全地は暗くなり、三時に及んだ。34 三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」という意味である。35 そばに立っていた何人かが、これを聞いて、「そら、エリヤを呼んでいる」と言った。36 ある者が走り寄り、海綿に酢を含ませて葦の棒に付けてイエスに飲ませ、「待て、エリヤが彼を降ろしに来るかどうか、見ていよう」と言った。37 しかし、イエスは大声を出して息を引き取られた。38 すると、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けた。39 イエスに向かって立っていた百人隊長は、このように息を引き取られたのを見て、「まことに、この人は神の子だった」と言った。40 また、女たちも遠くから見守っていた。その中には、マグダラのマリア、小ヤコブとヨセの母マリア、そしてサロメがいた。41 この女たちは、イエスがガリラヤにおられたとき、その後に従い、仕えていた人々である。このほかにも、イエスと共にエルサレムへ上って来た女たちが大勢いた。

42 すでに夕方になった。その日は準備の日、すなわち安息日の前日であったので、43 アリマタヤ出身のヨセフが、思い切ってピラトのもとへ行き、イエスの遺体の引き取りを願い出た。この人は高名な議員であり、自らも神の国を待ち望んでいた人であった。44 ピラトは、イエスがもう死んでしまったのかと不思議に思い、百人隊長を呼び寄せて、すでに死んだかどうかを尋ねた。45 そして、百人隊長に確かめたうえで、遺体をヨセフに下げ渡した。46 ヨセフは亜麻布を買い、イエスを取り降ろしてその布に包み、岩を掘って造った墓に納め、墓の入り口に石を転がしておいた。47 マグダラのマリアとヨセの母マリアとは、イエスの納められた場所を見届けた。